

首里高1年生が
取り組んだ
「ライフスタイルの転換」

首里高校1年生代表

はじめに

- 私たちは、沖縄の交通課題を解決するために首里高として何ができるのか、先生や内閣府の皆さんと話し合い、それを実践しました。
- 今日は、首里高1年が取り組んだことを発表します。

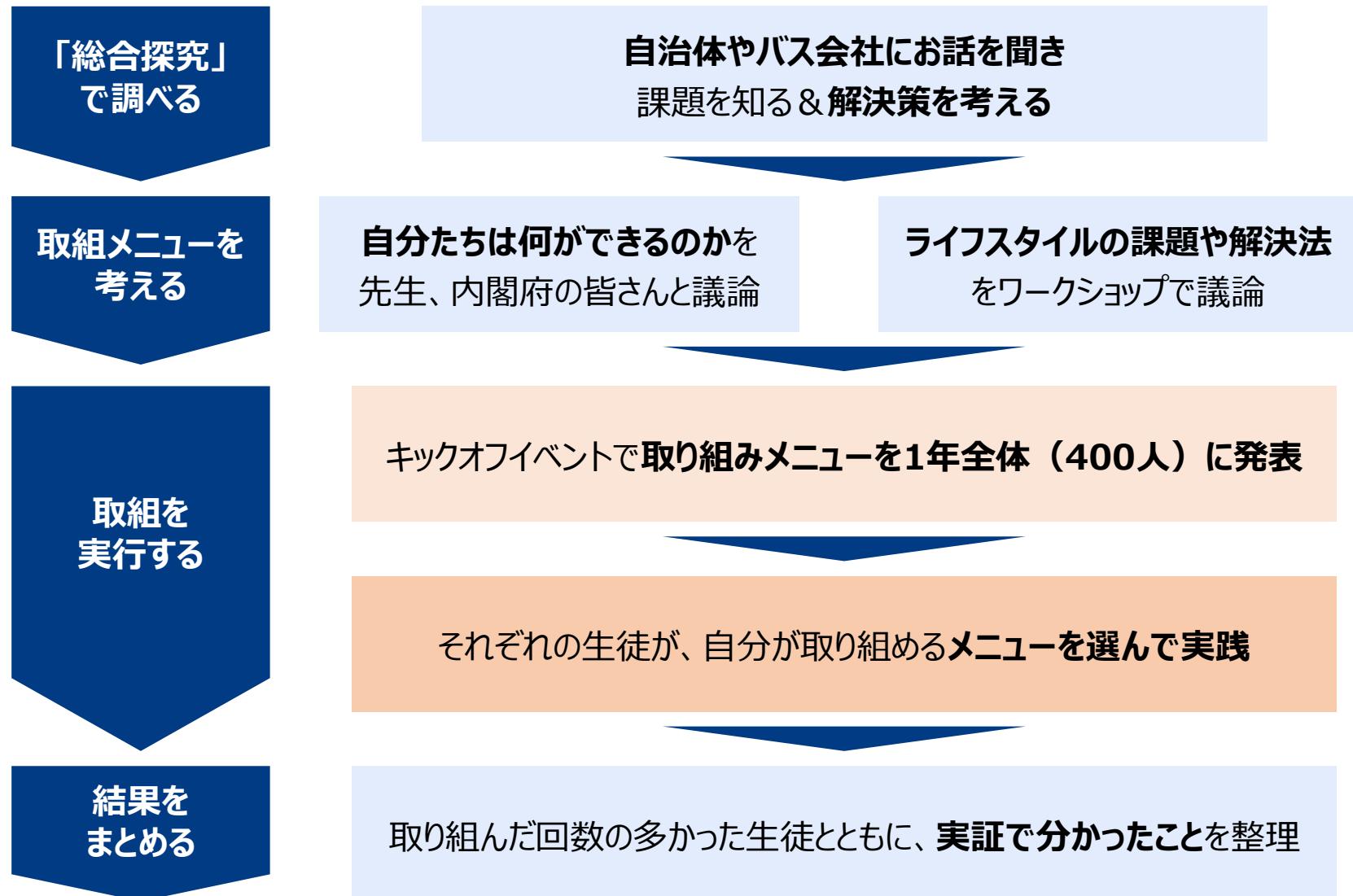
話し合いの様子



ワークショップの様子



取り組みの流れ



総合探究で分かったこと・考えたこと

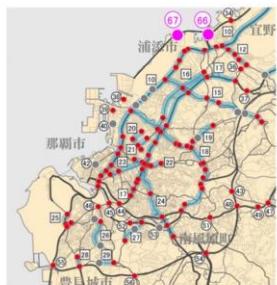
課題を調査

那覇市の渋滞の現状

- 那覇市の主要渋滞箇所 **111** 箇所
沖縄県全体の **66%** を占める
混雑時旅行速度が全国的に低い

- 那覇市に集中する原因
→人口・都市機能の集中による
交通容量の不足

沖縄県庁道路街路課



那覇市が抱える問題点

時期による観光客の波が激しい

交通渋滞
収入が不安定



季節によってお客様の
人数が違いすぎる……



提案

代替案②

3. フリンジパーキング



- 目的地より少し離れた場所に駐車し、公共交通や徒歩で移動する仕組み。
- フリンジパーキングを利用することで、料金を割引すること

4. オススメ店PR



- SNSやポスター作りなどで、歩いて行けるお店をアピール

バス停

- 魅力
- 移動が便利
 - たくさんある
 - 屋外で暑い
 - 雨に濡れる
- 課題



カフェ

- 魅力
- 涼しい所で休める
 - 軽食とドリンクがある
 - 宿題など勉強ができる



バス停カフェ

bus stop cafe



ワークショップで議論したこと

- 12月に実施したワークショップでは、「沖縄の理想の未来」と、「そのために私たちは何ができるか」について、意見を出し合いました。

テーマ①

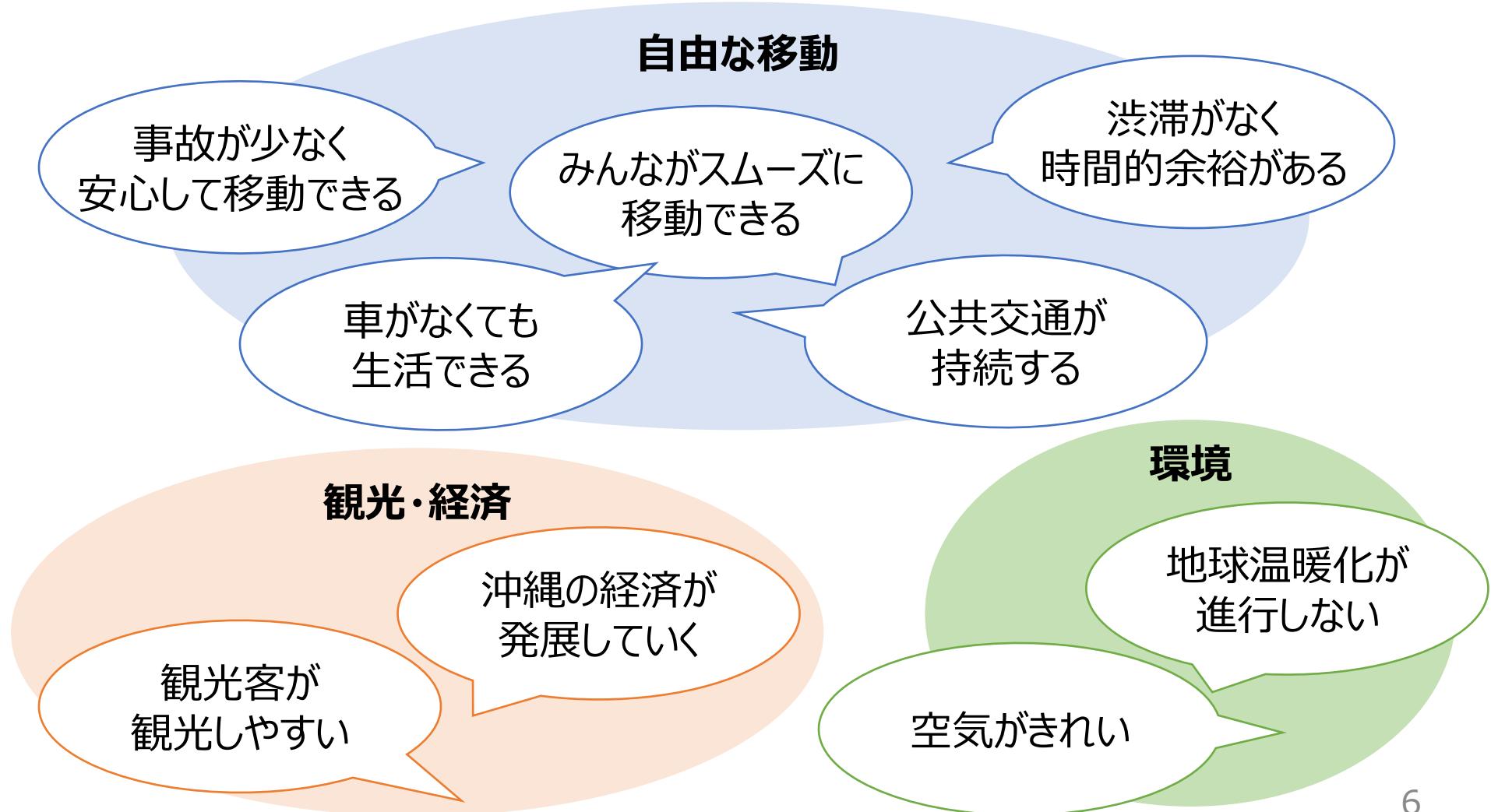
- 自分にとって、沖縄の未来にとって、どのような「理想の未来」が実現するとよいですか？
- また、そのために誰が何をすることが必要になりますか？

テーマ②

- テーマ①で議論した「未来」に向かって、自分ならどんなことができますか？
- それは自分ですぐにできそうですか？それとも誰かの協力が必要ですか？

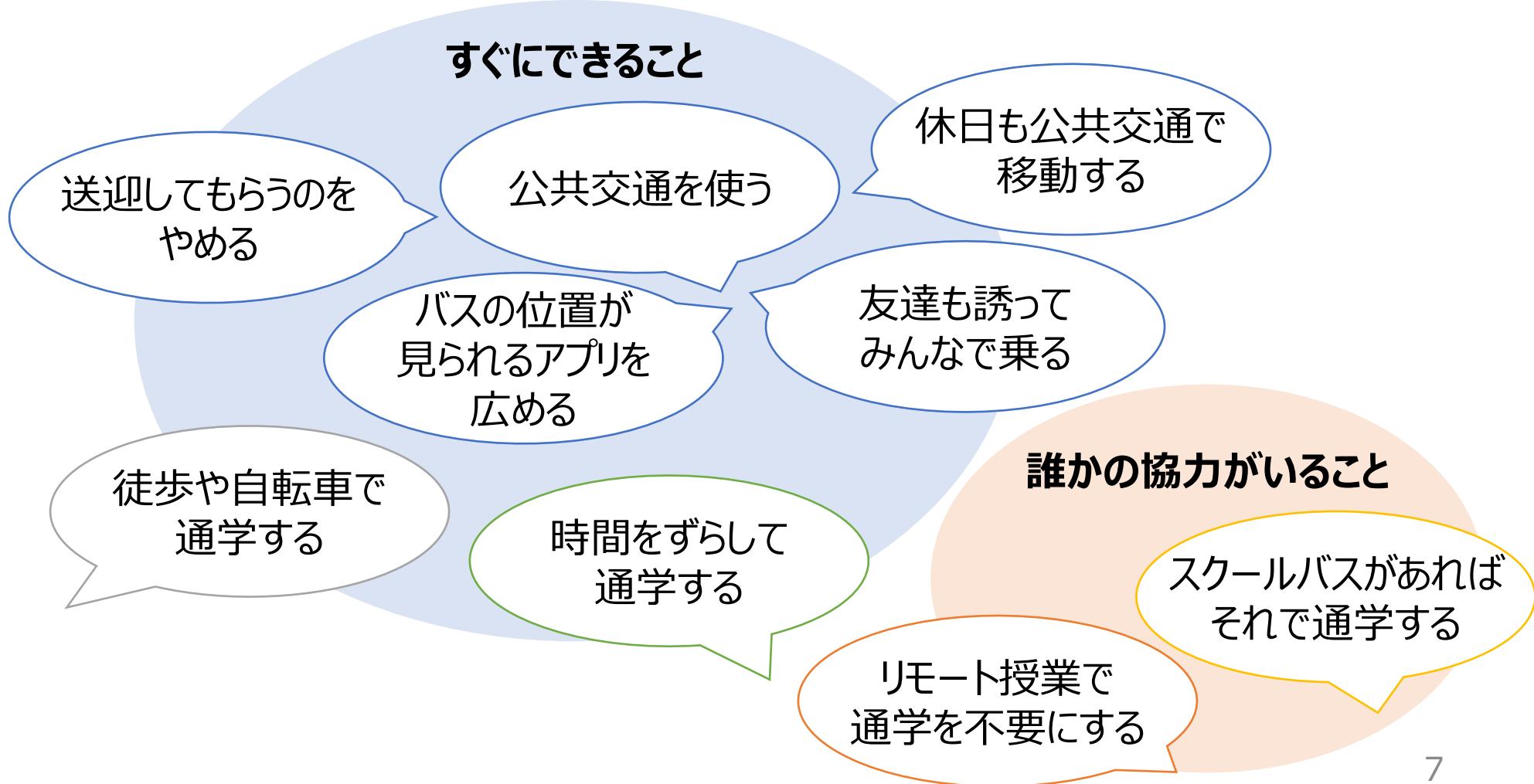
ワークショップで出た意見①（理想の未来）

- ・テーマ①「沖縄の理想の未来」



ワークショップで出た意見②（私たちにできること）

- ・テーマ②「理想の未来のために私たちは何ができるか」



取り組んだメニュー

- ・ワークショップで出た意見をもとに、今すぐに実践できるメニューとして下の4つを選び、首里高1年全体に呼びかけてこれらに取り組みました。

【移動手段の分散】

公共交通を使う
×遅刻の緩和



送迎場所を
変える



徒歩や自転車で
通学する



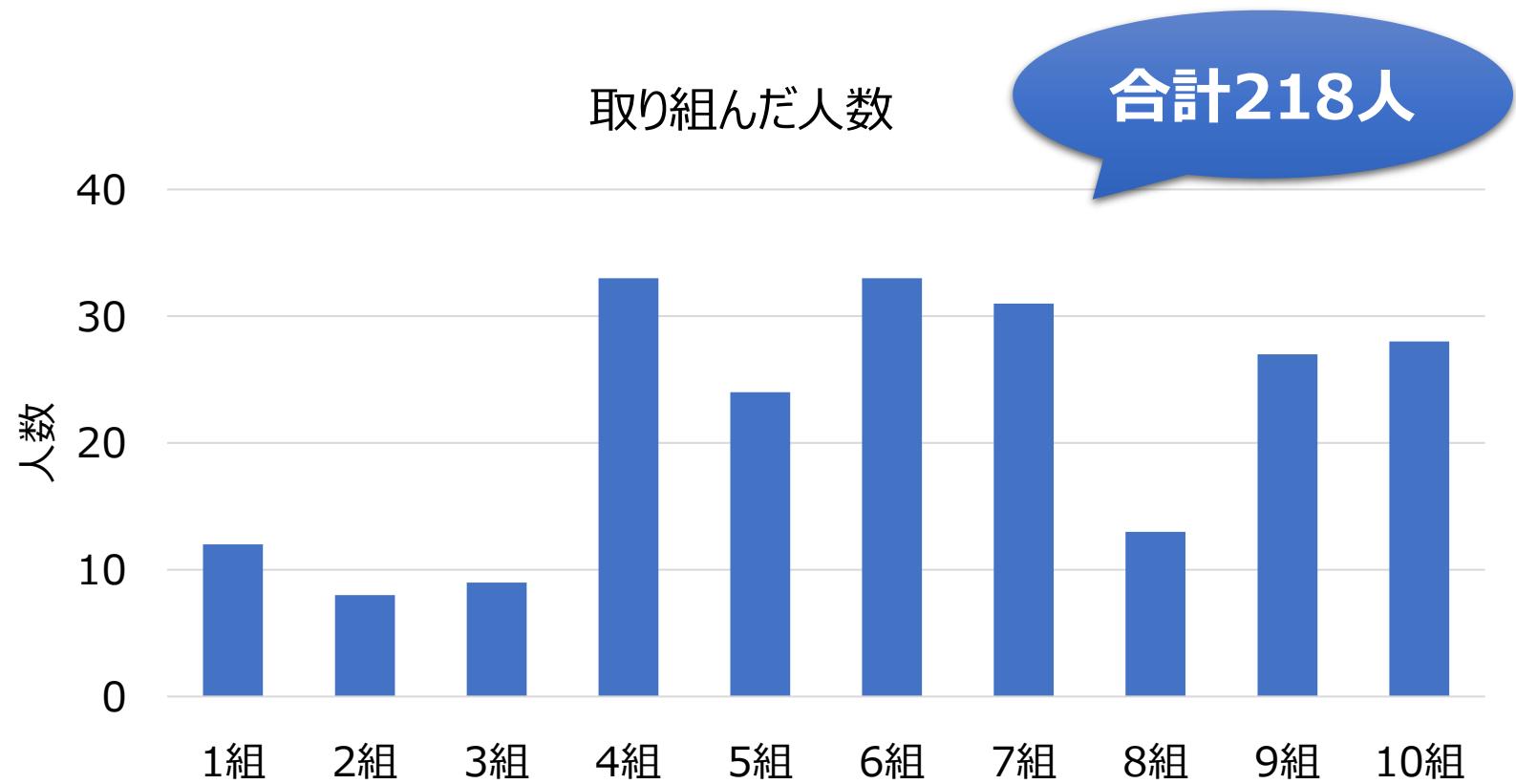
【時間の分散】

朝8時までに
登校する



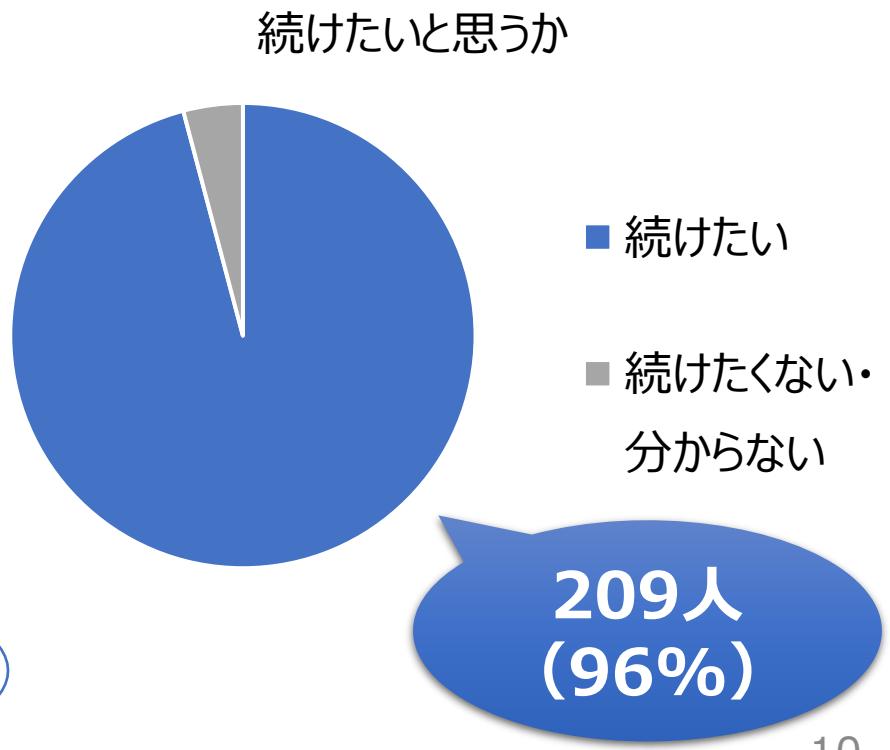
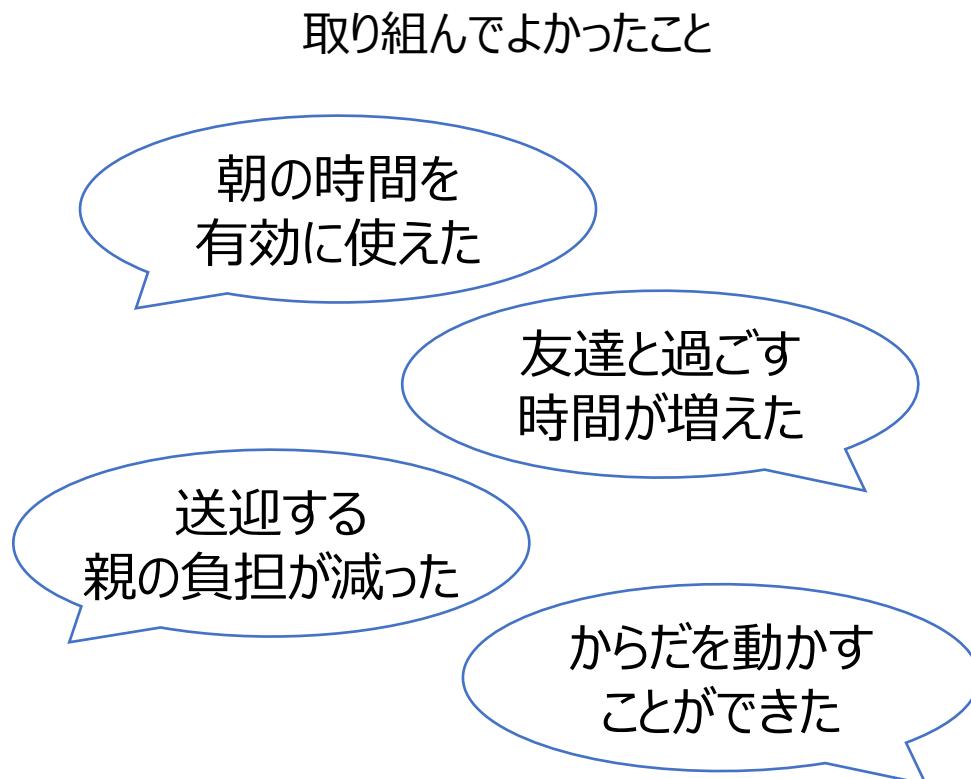
取り組んだ人数

- ・首里高1年生400人のうち、218人が今回の実証に取り組みました。その中で元々は家族の送迎で通っていた人も79人いました。
- ・多いクラスでは、40人中33人も取り組みました。



取り組んでよかったこと・続けたいか

- 取り組んでみてよかったこととして「朝の時間を有効に使えたこと」、「送迎する親の負担が減ったこと」などの意見が出ました。
- 実証に取り組んだ人のうち96%の人が、今後も公共交通機関による通学や早い時間の登校等を続けたいと感じています。



実証で分かったこと

- 取り組んでみて分かったこととして、「早い時間のバスは空いている」、「天気や季節によって大変さが変わる」などの意見が出ました。
- また、通学手段を変えなかった人の理由としては、「通学手段の変更によって、通学時間が多くかってしまうこと」が多いことがわかりました。

取り組んでみて分かったこと

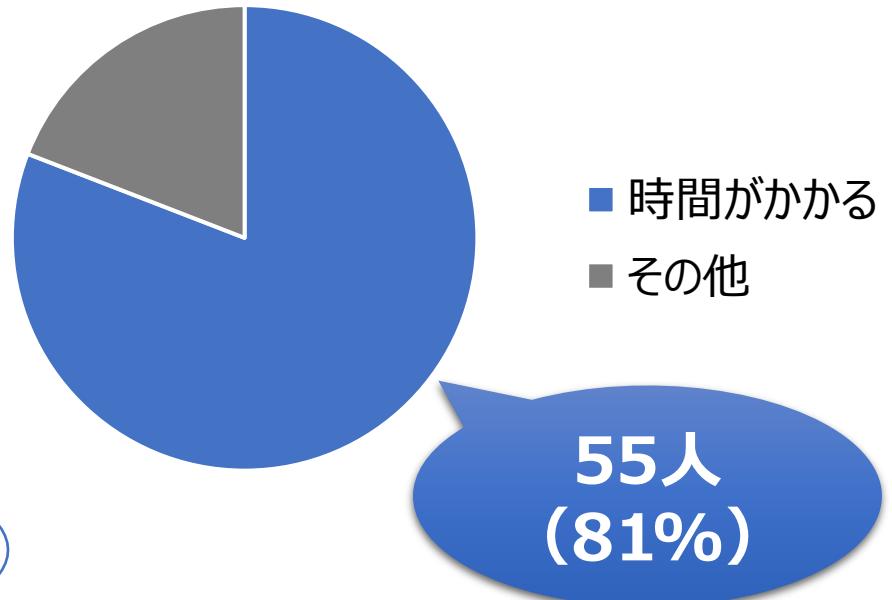
早い時間のバスは空いている

雨の日は遅れたり濡れるので大変

この季節（冬）は朝早いと寒い

バスの乗り場を間違えてしまった

通学手段を変えなかった理由

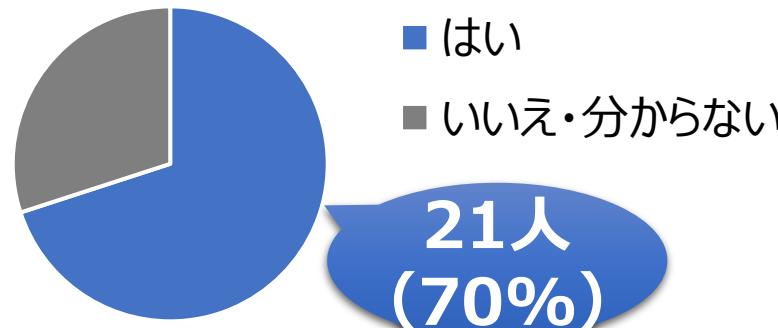


※ 通学手段を変えなかった人のうちアンケート回答者のみ

今後に向けて

- ・ 今回は取り組めなかったものの、機会があれば取り組みたい生徒も多いため、周りに働きかけながら取り組みを広げていきたいと思いました。
- ・ より多くの人々が通学手段の分散や通学時間の分散に主体的に取り組むためには、継続的にこうした機会をつくるとともに、
 - ✓ バスの時間と通学の時間をうまく合わせること
 - ✓ 金銭面を含めた負担を軽減するための工夫
 - ✓ 競争やゲーム的な要素を仕組みに組み込むこと（例：首里高校では「団ポイント」）ができるとよいと思いました。

機会があれば取り組みたいと思うか



※「移動手段の分散」、「時間の分散」の両方に取り組まなかった人のうちアンケート回答者のみ

